

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成27年 11月 9日

井原市議会議長
上野安是様

井原市議会議員 柳井一徳

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成27年11月4日
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目16-14 リファレンス駅東ビル
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	役所を動かす議員活動 「効果的な質問作成ノウハウ」
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	医療・健康問題研究所代表 同志社大学生命医科学部研究員 宮本正一氏
5. 活動内容	・質問作成の準備方法 ・住民相談から質問までの流れ ・理想的な質問とは ・博士論文的原稿の作り方 以上についての受講（別紙詳細のとおり）

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

役所を動かす議員活動

「効果的な質問作成ノウハウ」研修報告書

柳井一徳

講師の宮本氏は公衆衛生学の医学博士で同志社大学生命医科学部研究員としてまた、医療・健康問題研究所代表として活躍されている。

平成7年27歳で寝屋川市議会議員に初当選後、連続5期議員として議長も経験した体験談も含めて実践に即した講義であった。

① 『質問作成の準備方法』

1) テーマの探索

自分のプロフィールを活かし興味ある分野を設定し知識を増やすことを丹念に説明。例えば議員以前の職を活かす。役人は自分が知らないことを質問されると嫌がるとのこと。

また、興味がある分野は自分から進んで勉強するし知識を吸収する。

そして自分の弱い分野の質問テーマを探ることでさらに勉強し知識吸収につながる。

2) 優先順位づけ

選挙出馬時の公約達成のために敵を増やさない（中傷や批判をしない）

出馬前の確認（バックボーンの確認）

調査結果の集大成（一般質問や担当部課との折衝）

② 『住民相談から質問までの流れ』

1) 現場主義を徹底する・・・現場に足を運ぶことが大事。まごころ感が大事

（地域有力者は味方にもなり敵にもなるが現場に行くことで誠意を示す）

2) 役所の担当課長と協議する・・・答弁を考える立場でヒアリングがスムーズにできる

3) 先進市への視察・・・名物担当者とは名刺交換しておく、将来彼が大化けするかも

4) 質問案件を国・県担当者に電話で聞く・・・国・県の言質を取ると役人は弱い

5) メディア等からの情報収集・・・特に記者とコミュニケーションを作る

（ランチなど普段から誘うことが大事）

③ 理想的な質問とは

1) 質問・・・市町村の執行機関の行財政にわたっての疑問点をただし、所信の表明を求めるものである

2) 質問の効果・・・所信を正すだけでなく、そのことにより執行機関の政治姿勢を明らかにし、政治責任をはっきりとさせ政策の変更、是正または新規の政策採用などの目的に効果がある

3) 質問の取り扱い・・・議長への質問通告は質問を理論的に構成し、具体的な内容の要旨を提出するもので、議員主導で行われるので建設的立場の次元の高い質問を展開するべきである。

④ 博士論文的原稿の作り方

- 1) 博士論文とは背景、仮説、検証、結論から作成される
質問もこのように背景（執行機関の疑問点、地域要望等）があり、それに関連した事柄への展開、問題提起により質問に至ることが大事である
- 2) 結論の設定をしておく・・・YES か NO かを判断しておく（結論へ導く構成を考える）
- 3) 首長との距離を考える・・・With か VS かよく見極めること

以上

所感

実践に即した講義であった。特に市民の方たちの相談に対して真心を持って接することが大事であり、現場に足を運ぶなど当たり前のことである。しかし、忙しさを理由におろそかにすることが自身の政治姿勢を問われることとなるので今回の受講は自分への戒めとして受け止めたい。また、これは人間としても大事なことであり、役所の職員にも言えることであろう。そして、役所職員に対しての接し方、メディア関係とのコミュニケーションの大事さなど参考になった。質問作成ではテーマを根とし幹を探り、そこから枝を伸ばし質問構成を考える手法は是非3月議会から実践していきたい方法であった。